

〈卒論〉千葉県下の高校生の方言使用の状況

江波戸, 絹代 / エバト, キヌヨ

(出版者 / Publisher)

法政大学国文学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

日本文学誌要

(巻 / Volume)

58

(開始ページ / Start Page)

128

(終了ページ / End Page)

141

(発行年 / Year)

1998-07-11

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00020035>

千葉県下の高校生の方言使用の状況

江波戸 絹代

はじめに

千葉県は東京都・埼玉県・茨城県に隣接している。このように他県と隣接する地域から海、山に囲まれた自然環境豊かな地域までに広がっているため同じ千葉県でも場所によつては、その土地のことが残っているところもあれば、消滅している地域もある。いわば都市言語と地域言語の共存県である。都市からの人口の流入・南房総のような海に囲まれた地域など様々な違った要素の中で、方言の使用状況とその意識について考えていきたい。

第一節 千葉県の概略

人口は増加の一途をたどり1993年(平成五年)10月1日現在、人口5994004人、世帯数2019、084世帯である。平成12年度(西暦2000年)には624万人に達する見込みである。

千葉県は農業、漁業など盛んである。簡単に千葉県の産業についてふれてみる。

・農業：千葉県の農業は温暖な気候と豊かな土壌、そして大消費地の首都圏を抱えるという好条件に恵まれ、古くから「江戸の台所」として野菜などの生鮮食料品の供給基地となってきた。平成7年度の農業粗生産額では、北海道についで全国2位となっている。

・漁業：三方を海に囲まれ沿岸、沖合の好漁場に恵まれている。半島沖合では太平洋を北上する黒潮(暖流)と南下する親潮(寒流)が合流することから、年間を通じて各種の魚介類が水揚げされている。銚子・勝浦など日本を代表する漁港があり漁師ことばもまだまだ残っている。

・工業：鉄鋼・石油化学など重化学工業を中心として日本を代表する工業圏としての役割を果たしている。昭和50年代には内陸部を中心とした先端技術・成長産業の立地がすすんでいる。「京葉工業地帯」と呼ばれるように東京都とのつながりは密接な

ものであり他県からの人口の流入も多いと考えられる。

第二節 県内の高校について

県立高校142校、特殊29校、国立大附属特殊2校、市立8校、特殊3校、私立54校、計238校ある。(平成9年現在)
全日制の生徒総数は県立高校119、672人(男61、246人、女58、426人)、私立高校8、795人(男4、682人、女4、113人)、私立高校57、426人(男27、709人、女29、763人)である。

県立高校、市立高校における学科別生徒数は、普通科104、270人、農業科5、773人、工業科4、918人、商業科6、869人、水産科968人、家政科1、601人、その他(英語、看護、体育、国際教養、福祉教養、理数など)4、068人である。(平成9年5月1日現在、千葉県財務課調べ)

千葉県では農業科など減少しつつあるが、農業経済科、生産流通科、食品調理科など、新しく作られ、また単位制高校や環境化学科、環境建設科など特色ある学科、コースも新設され、21世紀にむけて新たな学校づくりも進んでいる。

第三節 アンケート実施について

千葉県下の高校生を対象として

・はじめに

テレビやラジオでアナウンサーが話すことば―新聞や本にも書かれていることばは、日本全国の人々に通じる。一般にこのようなことばを標準語という。

学問的に日本語としてふさわしいか検討された上で標準的日本語を定めるものを標準語というなら現在の日本には標準語はないと言えるのではないかと思われる。

今、標準語と呼ばれているものを仮に、全国共通語と言ってみると性質がはっきりしてきている。標準的日本語として正しい言語という意味はなくなり全国一般に通用ことばということになるだろう。

それでは方言とは何だろうか。日本全国には通じないことばを方言というのだろうか。

方言とはある一定地域内に行われる全言語体系であるから特殊な語彙も、共通語と同じことばもその地域の人たちのことばであればそれは方言とみなされるのではないだろうか。

方言の成因は、地理的に離れているため、人の行き来がなく(あるいは少なく)、言語の変化の仕方に相違が生じたこと、あるいは民族的成層の相違、などが考えられる。特に日本の東西で言語が大きく異っていることについては、先住民族の相違がことばの成り立ちに影響しているのではないか、このような問題も提起されているようだが未だ解明されていない。

・調査方法

千葉県は、東京、埼玉、茨城と隣接している地域から沿岸部まで幅広いため、かた寄らないように25校選んだ。また農業高校、商業高校、水産高校といった職業高校も9校含め普通高校だけにしないようにした。男女の割合も大きく開かないように配慮した。学校数26校、調査総数1376人(男700人、女

676人)取ることができた。各学校につき50名分のアンケート用紙を持っていき、できる分だけお願いした。本来ならば私自身がアンケートの主旨や内容を直接説明し実際に行うのが理想であるが、今回は先生方に御協力いただいた。返送してもらう方法を取った。返送されなかった高校が2校あったが学校によっては3クラス分取って下さった学校もあり当初の目標1000人をはるかに上回る結果となった。

資料I 調査結果一覧表
 資料II アンケートの内容
 資料III アンケートを取った学校

資料 I

地名	学校名	男	女	総	同居	別居	うつちやる		おつす		サガと濁る		会話⑬		よく使っている		時々使う		ほとんど使わない		全然使わない		使わないようにする		これから使う		地元のだだけう		
							同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居	別居	同居
①銚子	A 高校	53	98	151	84	67	(1)	(1)	17	17	28	24	19	26	11	11	25	35	11	17	9	3	3	5	20	19	12	18	
②小見川	B 高校	39	12	51	30	21	(5)	0	3	0	22	5	9	5	3	1	13	10	9	6	4	3	0	3	4	5	14	5	
③佐原	C 高校	24	17	41	21	20	0	0	3	0	6	3	2	3	0	1	9	9	11	6	5	4	1	0	4	9	4	1	
④佐原	D 女子高	40	40	21	19	(1)	0	1	1	8	0	2	0	5	1	10	7	5	3	1	9	3	2	8	2	9	1		
⑤旭	E 高校	23	13	36	21	15	(2)	(1)	1	0	6	0	4	5	2	0	11	6	6	6	2	2	1	1	6	4	5	1	
⑥八日市場	F 女子高	68	68	33	35	(2)	0	4	3	4	0	0	1	1	1	15	9	19	12	7	10	4	2	5	1	6	4		
⑦匝瑳	G 高校	24	19	43	26	17	0	0	1	3	4	2	5	4	3	2	10	6	11	6	1	3	3	3	4	2	7	2	
⑧多古	H 高校	21	9	30	15	15	(2)	(5)	2	6	10	4	4	8	1	2	7	4	4	4	2	5	1	2	5	3	2	2	
⑨成東	I 高校	22	18	40	16	24	0	0	1	0	1	0	2	2	0	0	3	5	5	12	4	11	0	3	2	1	1	1	
⑩白里	J 高校	19	12	31	17	14	(2)	(1)	1	1	1	0	5	8	2	1	5	7	1	2	6	6	1	2	5	3	0	2	
⑪長生	K 高校	14	25	39	18	21	1	0	3	1	14	0	4	0	0	0	5	2	6	5	6	14	2	3	5	1	2	2	
⑫大多喜	L 高校	20	21	41	25	16	3	1	7	0	0	0	7	2	1	0	7	4	10	7	7	6	2	1	4	3	3	0	
⑬大原	M 高校	35	10	45	24	21	1	3	3	1	0	0	6	11	2	7	10	2	4	7	1	5	2	1	6	4	2	4	
⑭御宿	N 女子高	40	40	23	17	(3)	1	6	2	0	0	14	2	6	1	13	7	3	5	3	4	5	3	9	3	5	4		
⑮勝浦	O 高校	15	17	32	14	18	4	1	8	3	0	0	1	9	2	1	7	6	4	5	5	2	1	3	4	0	4	4	
⑯鴨川	P 高校	42	76	118	60	58	9	8	15	18	1	0	7	7	7	5	20	21	18	25	15	6	2	3	15	17	9	9	
⑰和田	Q 高校	25	10	35	23	12	0	0	8	3	0	0	0	0	2	0	8	7	5	4	6	5	4	2	5	2	4	3	
⑱館山	R 高校	117	117	56	61	7	2	13	3	2	0	24	14	11	4	25	27	11	18	9	10	3	1	20	15	12	9		
⑲市原	S 高校	106	48	154	77	77	4	3	2	3	1	1	17	13	5	5	14	14	22	16	34	38	5	2	9	7	6	9	
⑳千葉	T 高校	10	31	41	13	28	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	1	6	10	18	6	1	0	2	1	0
㉑千葉	U 高校	18	19	37	8	29	0	(1)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	4	2	6	3	18	1	2	1	4	0	1
㉒八千代	V 高校	17	19	36	11	25	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3	4	4	3	3	15	2	1	0	2	1	0
㉓松戸	W 高校	8	24	32	6	26	0	0	0	0	0	0	3	0	2	1	4	0	4	2	4	2	16	0	0	1	3	0	0
㉔柏	X 高校	27	15	42	10	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	8	24	0	0	0	0	0	3
㉕野田	Y 高校	21	15	36	5	31	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	6	1	4	4	18	0	1	0	6	0	1
計		700	676	1376	657	719	37	19	99	66	108	42	132	128	65	50	224	209	165	194	157	255	46	47	142	118	109	86	

資料 II

学校名 _____ () 学年 性別 男・女

①小学校卒業まで住んでいた所 _____ 市 町 村

②現在住んでいる所 _____ 市 町 村

③好きなテレビ番組 (いくつでも可) _____ 市 町 村

④愛読書(マンガでもOK): _____

該当する項目に○印を付けてください。

⑤祖父母と (同居している ・ 同居していない)

⑥家の中でその土地のことばや方言を話す人が (いる ・ いない)

⑦あなたは現在その土地のことばや方言を

(よく使っている ・ 時々使う ・ ほとんど使わない ・ 全然使わない)

☆よく使っている・時々使うと答えた方へ……方言は将来的に使わないようにしますか。

(使わないようにする ・ これからも使うだろう ・ 時々地元の友達と話すときだけ使う)

⑧子供の頃方言を使っていましたか。

(よく使った ・ あまり使わなかった ・ まったく使わなかった ・ あまりよく覚えていない)

⑨友達との間で「自分」のことを何といいますか

例) 僕・オレ・わたし・あたし・わし etc…

⑩「捨てる」を日常使っている言い方で書いてください (ひらがなで)

⑪「押す」を日常使っている言い方で書いてください (ひらがなで)

⑫「坂」を「サガ」と濁って発音することがありますか (ある ・ ない)

⑬ _____ 線の部分をあなたが日常話していることばで () 内に書き直してください。

なお、B5版用紙の参考例を見て答えてください。(ひらがなで)

「学校から 帰 っ た ら 遊 び に 行 こ う 」

() ()

「うん、 行 こ う、 行 こ う 」

() ()

「でも、夕方は雨 じ ゃ な い か な き っ と。傘もってこいよ」

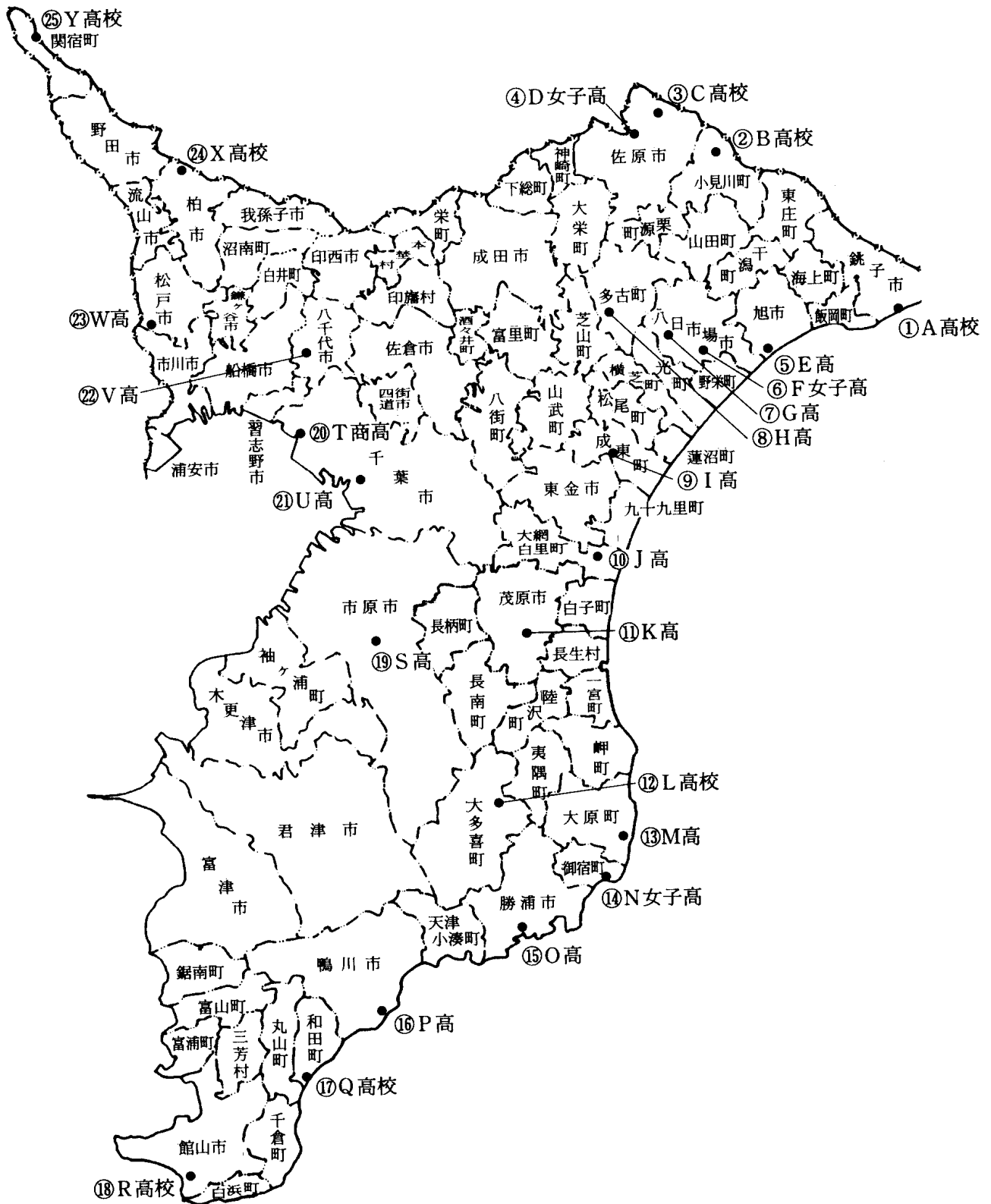
()

「 そ う し ょ う 」

()

⑭その土地のことば、方言やイントネーションはなくなりつつある地域もありますが、あなたは千葉県の方言についてどう考えますか (好きなように自由に書いてください)

資料 III



・千葉方言の概略

千葉県の方言には文法面の特色の代表的なものとして「べ・ぺ」がある。「くだろう」という推量の意味と「くしょう」という意志勧誘の意味の2つがある。

今回のアンケートでは「おっぺす」「おっびす」（いずれも「押す」という意味）と「うっちゃる」（捨てる）という意味の使用度と、カ行の濁音化について（例えば「坂」を「サガ」と発音するような）考察した。そして先に述べた「べ・ぺ」の地域差などにもふれ、県内の高校生がどれくらい方言を使用しているか見ていく。

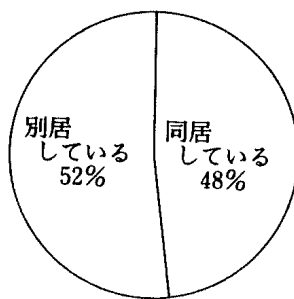
戦後生まれの親から生まれた若年層の中で方言はどの程度支持されているだろうか。方言を使う人は全国的に考えても減少してきていることは確かである。なぜこのような状態になってきたか―それには様々な原因があると思われる。視聴覚媒体であるテレビによるマスコミュニケーションの発達があげられる。また生活水準の向上によって都市・農漁村の生活様式に違いがなくなってきたこと、都市化が進展したこと、日常生活における行動範囲が広がり、地域の閉鎖性がなくなってきたこと等があげられるだろう。その他、市民の教育水準の向上ということも考えられる。

明治書院の『千葉県のことば』（编者、平山輝夫氏）を見ると多くの千葉方言を見ることができ、若者が使っている方言はもう限られていると思われる。アンケートの結果を見ると本当に方言使用者が少ない。しかし少ないなかでもまだまだ地域のことばとして方言を使用している若い世代がいるのではない

だろうか。

・方言の残存度にみられる核家族化の進行

アンケート総数1、376人（男700人、女676人）の中で祖父母と同居しているかいないかを分類してみた。千葉県全体を見ると核家族も大家族も50%前後と大きな開きが見られない（表1）。各別に見ると25校中11校が別居している方が多くなっている。また同居しているという方が多い場合においても上回り方が少なく、ほぼ半数に分かれているというのが結果としてわかる。特に東京都に近い地域の高校においては、核家族が70%〜80%占めている。

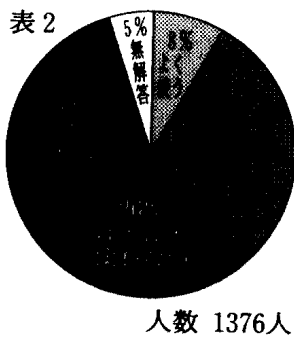


くらいなものなのだろうか。

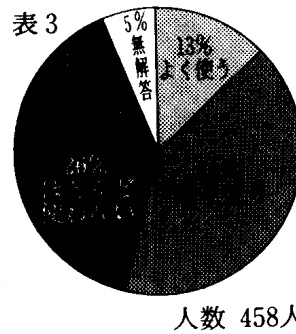
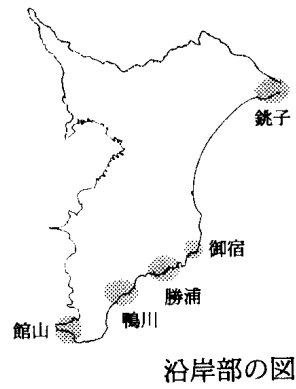
・調査結果

今、現在その土地のことばや方言をどの程度使っているかについての調査結果は表2の通りである。使うと答えた人は全体の40%で、使わないと答えた人は、全体の56%を占めている。しかし、祖父母と同居していると答えた人の中で分類すると、よく使うと答えた人が10%、時々使う

よく使うと答えた人が10%、時々使う



34%、ほとんど使わない25%、全然使わない24%という結果で、別居している人に比べると方言を使う割合が高く、方言を使わないと答える人が少ない。また沿岸部にしばって見てみると、方言の使用率が高くなっていることが明らかである。(表3)

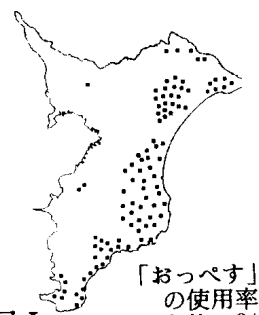


次に、方言を「よく使っている」、「時々使っている」と答えた人への質問で、方言は将来的に使わないようにするかどうかでは、「これからも使う」、「地元の人たちとだけ使う」と答えた人が合わせて83%にも昇る。千葉県全体で見ると方言の使用率は決して高いとは言えないが、実際に方言を日常使っている人たちが、将来的にも方言を何らかの形で使っていこうとする意志を確認できる結果が得られた。

では実際にどのような方言が使われているのか考察していく。

「押す」を日常使っていることばで書いて下さい」という質問では、祖父母と同居していると答えた人657人中「おっぺす」「おっぴす」と答えた人が99人(15%)であった。祖父母と別居している人の中では「おっぺす」「おっぴす」と答えた人が719人中66人(9%)いた。「おっぺす」は茨城県、栃木県安蘇郡、群馬県、埼玉県北足立郡、秩父郡、神奈川県三浦半島、

新潟県佐渡地方、中魚沼郡で使われている。又、「おっぴす」は千葉県のみの使用とされている。図Iでもわかるように、茨城県境地帯から太平洋沿岸(外房)全域で使われている。もとは漁師ことばであったと思われる。銚子地区のA高校では「おっぺす」と言う人が全体の23%、御宿地区のN高校(女子高)では20%、鴨川地区のP高校では28%と沿岸部での使用率が高いことが実証された。また、千葉県を代表する漁港がある勝浦地区では34%と一番使用率が高い。銚子漁港、勝浦漁港、千倉漁港というように、東京、埼玉に比べ、関東を代表する港がある。他県から南下してきて漁師の多い沿岸部で好まれて使われていたのではと考えられる。



「捨てる」を日常使っていることばで書いて下さい」という質問では、同居していると答えた人の中で37人が「うっちゃる」と解答した。また別居していると答えた人のなかで19人が「うっちゃる」と答えた。他に「捨てんべ」「捨てっぺ」「ふてる」と答えた人は、全体で27人(6%)ほどいた。地図に分布すると(図II)、茨城県境近辺は「捨てんべ」が多く、御宿から南に下る地域で「うっちゃる」が使われている。全国では、主に関東地方を中心に「うっちゃる」が多い。「おっぺす」に比べると「うっちゃる」の使用率が低い。



⑬ 線の部分をあなたが日常話していることばで () 内に書き直してください。

なお、B5版用紙の参考例を見て答えてください。(ひらがなで)

「学校から 帰ったら 遊びに 行こう」

() ()

「うん、 行こう、 行こう」

() ()

「でも、夕方は雨 じゃないかな きっと。傘もってこいよ」

()

「 そうしよう」

()

その45人の中でアンケートの回答を分類すると次のようになる。

A高校では151人中45人が方言の使用があった。

でもカ行の濁音化は見られるのだろうか？

佐原地区のD女子高校や八日市場地区のF女子高校では会話部分の方言の使用率が低いので女子については日常会話で方言を使わないのではと判断したくなるが、御宿地区のN高校(女子高)では40%と高い割合で方言を使用している。でそうとも言い切れない。ではその御宿地区N女子高校と銚子地区のA高校と館山地区のR高校で方言の比較及び傾向を見ていく。

銚子地区のA高校では、「坂」を「サガ」と発音する人が34%もいた。会話部分でもカ行の濁音化は見られるのだろうか？

まず右の分類を見て感じることは、およそ同じ地域から通っていてもこんなにも多くの方言の表現があることに驚く。方言に

★ そうしよう



そう すっぺや……2人
 そう すっぺ ……19人
 そう すべえ ……1人
 そう だあね ……1人
 そう だあーな……2人
 そう だっぺ ……1人
 いかっぺ ……1人
 そう するべ ……1人
 そう すんべか……1人

★うん、行こう行こう



行^ぐべ ……15人
 行^ごう ……2人
 行^ぐ ……2人
 行くべ ……14人
 行^ぐんべ ……1人
 行こべ ……1人

★でも夕方は

雨じゃないかな



じゃねーがー……2人
 だっぺ ……5人
 だべ ……3人
 じゃん ……26人

★ 学校から帰ったら



かえったあーあー…2人
 けえったあーあー…19人

★ 遊びに行こう



行^がねー ……1人
 行^ごうよ ……1人
 行^ぐべえよ ……2人
 行^ぐが ……3人
 行^ぐべや ……1人
 行^ごが ……1人
 行く^が ……1人
 行^ぐべ ……15人
 行くべ ……15人
 (カ行の濁音化に○印)

もその時の状態や気持ちによって微妙な違いがあるようだ。○印を付けた所がカ行の濁音化になっている部分である。「行く」に関していえば「行くべ」「行くこべ」を除き全て濁音している。女子でも「行くが」など使用している例も多く、男女の差はあまり見られなかった。

御宿地区のN女子高校の結果は次の通りである。

- | | |
|---|---|
| <p>★雨 <u>じゃないかな</u>
↓
だべ……1人
だっぺ……5人
じゃん……5人</p> <p>★ <u>そうしよう</u>
↓
そうすんべ……2人
そうしべか……1人
そうすっぺ……1人
そうしべ……3人</p> | <p>★ <u>学校から帰ったら</u>
↓
けえったら…3人
けったら…1人</p> <p>★ <u>遊びに行こう</u>
↓
行くべ ……15人
いくべおー……1人
行っぺおー……4人</p> <p>★ <u>うん、行こう行こう</u>
↓
行くべ ……7人
行っぺ ……3人
行きべ ……2人</p> |
|---|---|

館山市内のR高校の分類は、

- | | |
|--|---|
| <p>★雨 <u>じゃないかな</u>
↓
だっぺよ……2人
だっぺ ……4人</p> <p>★ <u>そうしよう</u>
↓
そうすっぺ ……2人
そうすんべえ……11人
そうすべえ ……2人
そうすべ ……4人
だっぴい ……1人
そうしべーよ……1人
そうしべ ……1人
そうだっぴい……1人
そうだっぺえ……1人
だっぺおー ……1人
そうするべ ……2人</p> | <p>★ <u>帰ったら</u>
↓
けえったら…17人</p> <p>★ <u>遊びに行こう</u>
↓
行くべ ……14人
いんべおー……1人
行くっぺえ……1人
行んべ ……1人
行くべえ ……9人
行くべえか……1人</p> <p>★ <u>うん、行こう行こう</u>
↓
行くべ ……11人
行んべ ……2人
行くべえ ……12人
行んべおー…1人
行くんべ ……1人</p> |
|--|---|

「行こう」は五段動詞の「意志」の例である。また「行くよ」は五段動詞の「勧誘」の例である。今回のアンケートには「遊びに行こう」と誘う場面と「うん行こう、行こう」と合づちを打つように自分の意志を伝える場面とがある。無意識に微妙な使い分けをしている。また地域差も見られる。平山輝夫氏の通信資料による「行こう」の分布図からまず見ていく。(図4)

右の図は全国の「行こう」の分布図である。千葉県は、「イクンペー」「イグベア」「エグベア」「イクペー」「エグペー」が記されている。千葉県の高校生（銚子・御宿・館山地区）の「行こう」は次のように分類される。（表1）

3つのどの地区も共通して使われているのが「行くべ」である。千葉県では方言使用者の大半が「行くべ」を使っていると考えられる。いわば方言の中の共通語と言えるのではないだろうか。勧誘の「行こう」も意志の「行こう」も「行くべ」を使用している。

図4 「行こう」の分布図

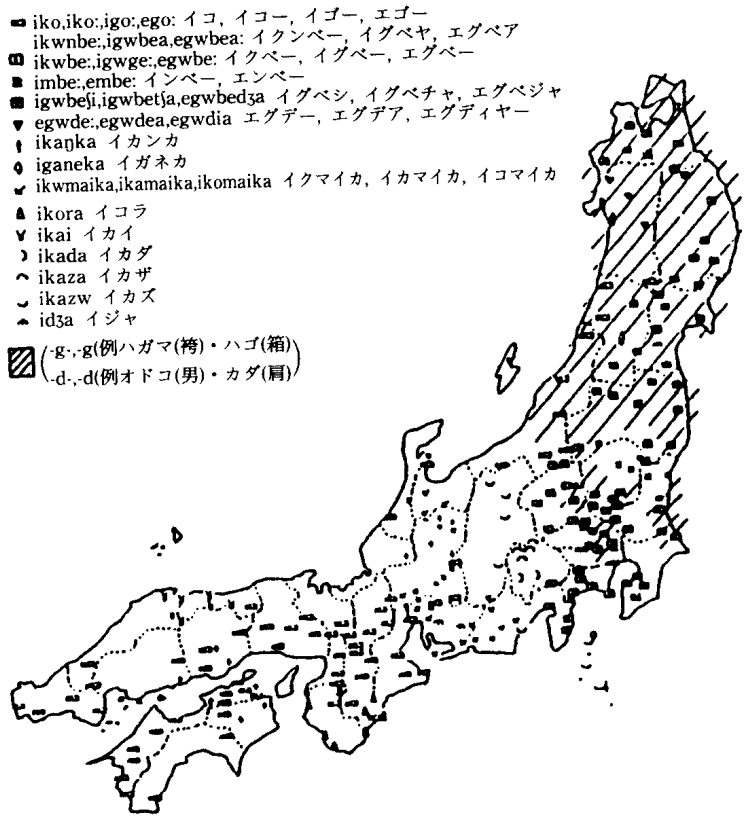


表1

うん 行こう	(意志) 行こう	遊び 行こう	(勧誘) 行こう	
行くべ	14人	行くべ	15人	銚子A高校
行くべ	15人	行くべ	15人	
行くべ	2人	行くが?	3人	
行くべ	1人	行くが?	1人	
行くべ	1人	行くべあ	1人	
行くべ	2人	行くが	3人	
		行がね	1人	御宿N女子高校
		行くべよ	1人	
		行くべよ	2人	
行くべ	7人	行くべ	9人	館山R高校
行くべ	3人	行くべお	1人	
行くべ	2人	行くべお	4人	
行くべ	11人	行くべ	14人	
行くべえ	12人	行くべお	1人	
行くべ	1人	行くべえ	1人	
行くべお	1人	行くべ	1人	
行くべ	2人	行くべえ	1人	
		行くべえか	3人	

銚子地区では「行くべ」に次ぐ言い方として「行くべ」がある。「行くべ」の「く」が濁った形である。他に「行くが」「行くべ」などカ行の濁音化が見られた。これらの言い方は他の地域では見られずこの地域独特の言い方と考えられる。

御宿地区では女子高による結果であるが、やはりここでも、他とは違った方言の特徴が見られる。「行くべお」「行くべ」と語尾が「お」と発音する言い方である。これは「行くべよ」の「よ」の代わりになるもので御宿・館山までの沿岸地域で使われている。意志の「行こう」も「行くべ」が多いが、他では見られない「行っべ」「行きべ」を使っている人もいる。「行く

「べ」より少し女性的な言い方として使われているのではないかと思われる。23頁の平山輝夫氏の「行く」の分布図では「行くべ」も「行きべ」も「行くべーお」もない。館山地区の「行く」の終止形に「べ」の付いた形で中古・近世の「ベシ」の連体形のイ音便行くベキ→行くべイ以来どの地域でもほとんど変化を経っていないものと思われる。

次に、「でも夕方は雨じゃないかな」と「そうしよう」について分類してみた。(表2)

そうしよう	雨じゃないかな	
そうすっぺ	じゃねーが	2人
そうすっぺや	だっぺ	5人
そうすべえ	だべ	3人
そうだあねー	じゃん	26人
そうだあな		
そうだっぺ		
いかっぺ		
そうするべ		
そうすんべか		
そうすんべ	だべ	1人
そうしべか	だっぺ	5人
そうすべ	じゃん	5人
そうしべ		
そうすべ	だっぺよ	2人
そうすべえ	だっぺ	4人
そうすんべえ		
そうすっぺ		
そうしべえよ		
そうしべ		
いかだっぺえ		
そうだっぺえお		
そうするべ		

「雨だろう」と例題を作らず「雨じゃないかな」にしたのは、

若い世代で「じゃん言葉」がどれくらい使われているか知るためである。予想通り「雨じゃん」と記入した例が多くあった。新方言の調査の中で「日常会話で「じゃん」と使いますか」という問いに対して1376人中1217人(88%)の人が「使う」と答えた。男女差も地域差も特に見られなかった。銚子地区のA高校では「雨だっぺ」より「雨じゃん」の方がはるかに多い。「じゃん」はもともと横浜弁とされていたが、ここ数十年の間に急速に広まったと考えられる。「行くべ、行くべ、でも、雨じゃん」というように、方言を使いながら「じゃん言葉」を使う例も多かった点は大変興味深い点であると思われる。しかしながら3つの地区で共通して使われているのは「雨だっぺ」である。「だっぺ」は、福島県南半と栃木県各地で使われる。栃木県付近の年齢差から見ると「だんべ」より新しい。「だっぺ」は福島県南部から栃木県北部、千葉、茨城へ南下してきたと考えられる。「だんべ」→「だっぺ」→「だべ」という変化を推定できる。千葉県の高校生の間では「だんべ」というのは使われていないようである。「そうしよう」は各地区様々な回答があった。強意を表すものや軽い気持ちなどその状態によって方言も微妙に異なる。「そうすんべ」「そうすっぺ」という言い方が多く、「んべ」→「っぺ」の音声的な変化も全国的に進行していると考えられている。「べ」が最新の語形と位置づけられているがその変化についてふれてみる。

まず動詞では終止形が「ル」で終る動詞(ラ行五段動詞および一段動詞、変格動詞)では、「撥音+べ」から「促音+べ」の変化が見られる。ラ行以外で終る動詞では全国的に「行くべ」

「読むべ」と「べ」が接続する。しかし御宿のN女子高校では「促音+べ」が使われていた。「行こう」が「行っべおー」「行っべ」が少数であるが見られた。このように方言が各地域、年齢によって差があることがわかる。

第四節まとめ

以上のように、方言にも生き残る言葉と消滅する言葉があり変化していく。房総半島は南へ行くほど海に囲まれ、他県との隣接がない。しかし銚子から外房にかけていくつかの大きい漁港があり海を渡って他県からの言葉が流入してきて、漁師ことばが生まれたと考えられる。また利根川流域では、茨城方言も影響しているだろう。40代以上の人たちは、その土地のことは話す人がまだまだ多くいるが、現実には方言を話す高校生が少なくなってきたのはアンケートの結果で実証された通りであろう。平成9年12月に館山のR高校の一年生五人に話を聞く機会があり、3時間一緒にいて、方言を使ったのはたった1人であった。「チヨ―寒さむいつた」の一言だけであり全てが標準語の会話であった。なぜ若者から方言が消滅する傾向になったのだろうか。もちろん情報の多様化、マスメディアの発達も考えられるが、それだけが原因とは言えないだろう。海女さんや漁業が盛んな地域では浜のことばが実際にまだ存在するのである。しかし、現代の高校生は「あまり自分を出さない」という傾向があるように思われる。一人一人は個性があると思うが集団になると、人に合わせる、同調するという自分を主張しない世代が年々増えているのではないだろうか。自分の持っている地域

のことばを中学時代は使っていたとしても高校ともなると他地域の生徒も多くなる。「私は方言が好きだから話すヨ」という強い意志を持つ子より「何でもいいや、みんなと同じようにしよう」と自分を出さず、つまり方言を使わず標準語を使うようになつていのではないかと考える。今、高校生時代に方言を使わなくなつてしまつていたとしても大人になつてまたいつか使う日が来るのかもしれないが、しかしながら海女さんが減少すると並行して方言もなくなつていくのか、それとも残され守られていくのか、(閉鎖的だと私は思わない)それは今、結論を出せる問題ではない。

方言に対する意識をアンケートの終りに記入してもらつた。空欄でもどつてくるだろうと思つていたが意外にもぎつしりと書いてくれた高校生が多かつた。この部分は本論文を研究する上で大変参考になつた。一部ではあるが、生の高校生の声としていくつか抜粋して紹介したい。

○そんなに日常で使うことはないのですが、自分としては気にならない。しかし自分の祖父や祖母はよく使うので家にいると多少気になる(小見川地区 B高校一年男子)

○あたしは千葉がすごく好きです。もちろん勝浦はいいところですよ! 勝浦は浜や漁師が多いからことばも自然に乱暴になつていくけど、方言は絶対なくさないヨ。(御宿地区N女子高校2年)

○安心できる。地元に戻ったとき使いたい
(勝浦地区O高校二年女子)

○「方言」ってその土地のあたたかみがあって好きです。でも自分の発音が濁っていたりすると東京に住んでいる姉に注意される。

(匝瑳地区G高校二年女子)

○千葉の方言は方言という程方言ではないと思う。(匝瑳地区G高校二年女子)

○ダサイし、ヤバイ、標準語をはなした方がいい。田舎くさい。(市原地区Y高校二年女子)

○方言は大好きです。これをなくそうなんてダメです。もともとと方言を知りたいと思っています。(佐原地区C高校二年女子)

本論文中、学校名は伏せさせていただきました。

以上

参考文献

- 明治書院 編者代表 平山輝夫 平成九年二月
「千葉県のことば」
明治書院 井上史雄著 一九九四年四月
「方言学の新天地」
岩波書店 編集大野晋、柴田武
「岩波講座 日本語11 〈方言〉」
明治書院 井上史雄著 昭和六十年
「新しい日本語―〈新方言〉の分布と変化」
文化庁文化部国語課 (世論調査報告書平成九年一月調査)
「国語に関する世論調査」

(えばと きぬよ・一九九八年卒)